

授業概要

本講義では、ネット、音楽、ファッションなど身近な事象を例に、メディア文化について学ぶ。

メディアは、情報の伝達を行なう道具というだけではなく、私たちの経験や価値観を形作り、方向づけるものでもある。つまり、メディアについて考えることは、私たちの日々の暮らし方や考え方、私たちを取り巻く文化がどのように成立しているのかを考えることにもつながるのである。

本講義は、「メディアの不透明性」という考え方を軸に、メディアと私たちの関わりについて、多彩な具体例を用いながら講義する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	ソーシャルメディアとファンダム——K-POP を例に
第 3 回	雑誌/ソーシャルメディアとファッション
第 4 回	モバイルメディアと都市文化——イヤホンで音楽を聴くとはどういうことか
第 5 回	テレビとインターネットはどう違って、どう似ているのか
第 6 回	古いメディアと新しいメディアの関係
第 7 回	メディアとしてのミュージアム
第 8 回	映画がメディアになるまで
第 9 回	メディア・アートとは何か
第 10 回	DJ のメディア実践
第 11 回	ミュージックビデオの歴史
第 12 回	メディア文化としてのアイドル
第 13 回	メディア文化としての落語
第 14 回	メディア文化としての音楽
第 15 回	授業のまとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

身近なメディア文化事象を批判的に捉え、自分の言葉で考えを述べるようになる。

既に姿を消してしまったメディア文化や馴染みの薄いメディア文化について知り、異なる社会、あり得たかもしれない社会に対する想像、共感ができるようになる。

履修上の注意

講義時にコメントシートを配布し、授業の感想や自らの考え、疑問点等を書く時間を設ける（コメントも評価対象に含める）。

予習・復習

動画を見る時、本を読む時、SNS を使う時など、日頃から、自分たちを取り巻くメディア文化を観察し、考えたこと、感じたことを記録しておくことが望ましい。

ノートは積極的にとり、キーワードなどを復習しておくこと。

評価方法

筆記試験（60%）

コメントシートおよび授業への参加姿勢（40%）

テキスト

テキストは特に指定しない。

必要に応じて講義中にプリント配布やスライド投影を行なう。

参考書はその都度紹介する。